

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 31 日作成)

委員会名	生産性小委員会	主 査 名：三根直人
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工本委員会 (建築生産運営委員会)	委員長名：嵩 英雄
設 置 期 間	2001 年 4 月 ～ 2004 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	小委員会設置の目的は①生産性データ適用の実態把握、②建築の生産性を適正に評価することのできる新しい生産性の概念構築、の 2 点である。2004 年度の活動計画はこれまでのまとめと、本小委員会を発展させ 2005 年度以後に新たに設置される小委員会での研究内容についてのコンセンサスを得ることである。	
委員構成 (委員名 (所属))	三根直人 (北九州市立大学)、三浦延恭 (国土館大学)、河谷史郎 (ものづくり大学) 土橋稔美 (鹿島)、岩下智 (鴻池組)、岩沢成吉 (長谷工)、香月泰樹 (戸田建設)、後藤礼彦 (竹中工務店)、武藤正樹 (国土交通省)、蔡成浩 (早大)、浜田耕史 (大林組)、瀧諭 (清水建設)、宮島金吾 (フジタ)	
設置 WG (WG 名：目的)	(1) 生産性データ適用WG：各社で取得している「生産性」のデータを企業内または企業を超えてどのように適用しているかを調査する。 (2) 生産性の新しい考え方WG：建築では「労務歩掛り」といった生産性の概念があるが、経営・社会への貢献などを表すより新しい生産性の概念を模索する。	
2004 年度予算	150,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2004 年 4 月 28 日 (12 名)、7 月 12 日 (6 名)、9 月 13 日 (9 名)、11 月 12 日 (7 名)、2005 年 1 月 31 日 (10 名)、3 月 22 日 (10 名) 合計 6 回開催
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>主として、新しい生産性の概念WGの活動を主体に行った。生産性に関する建築生産業に関わる文献を調査して、本WGの検討課題に相当する考え方について、今後検討に値するものを抽出してシート化した。シート化に当たっては、各々を①概念・手法が必要となった背景、②ニーズ分析、③概念・手法の概要 (オリジナリティー、ユニークな部分、キーワード) の 3 つの軸で整理した。作成したシートを建築生産のレベル (社会・企業・作業所)、各レベルで関係する主体 (ステークホルダー) の 2 つの軸で分析を行った。この結果、建築生産を取り巻くステークホルダーを明らかにするとともに、各ステークホルダーごとに評価のための指標を検討した。これらの検討結果を踏まえて、2005 年度以後の研究課題を整理した。一連の活動によって 2005 年度以後新たに設置される小委員会の研究の方向を固めることができた。</p> <p>委員会 HP アドレス： 無</p>
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 2004 年度は前年度に行ったシンポジウムの成果を踏まえて次に設置する小委員会の活動方針を固める、メンバーのコンセンサスを得ることが目標であった。WGの精力的な活動によってこの目標に対し十分な成果を得ることができた。達成度は 100% であった。
その他評価すべき事項	生産性の新しい考え方WGの主査である後藤礼彦氏 (竹中工務店) の精力的な活動によって小委員会の目標を達成することができた。2005 年度以後は後藤氏を小委員会のメンバーとして迎え、更に積極的に新しい生産性の概念構築に向けて活動してゆく計画である。